

CAMD セミナー

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

認知機能の低下した高齢者とのコミュニケーション
—バリデーションへのいざない—

日本福祉大学
社会福祉学部 社会福祉学科
教授 北村 育子

平成 24 年 3 月 7 日(水) 午後 5 時 00 分～
研究所棟 2 階会議室

認知症の高齢者のニーズを理解するためのツールは、高齢者一般に適用される心身状況に関する評価項目だけでなく、認知症の症状とそれによって引き起こされる心理社会的ニーズを明確化することができなければならない。また援助者には、そのツールを適切に機能させるための技術が求められる。

バリデーションは、言語能力によって認知症の症状の進行段階を設定し、その人の感情に焦点をあてつつ、それぞれの段階に対応したコミュニケーション技術を用いており、言語によるコミュニケーションが次第に困難になっていく認知症の高齢者との意思疎通を、かなり後期まで維持することができる。それによって職員は、認知症高齢者をよりよく理解することができる。同時に、認知症高齢者を、ニーズ明確化の過程に参加させることが可能となる。今回のセミナーでは、そのバリデーションの態度・理論・テクニック等の紹介を行う。

連絡先: 認知症先進医療開発センター
在宅医療・自立支援開発部 部長 近藤和泉(内線 3119)